

ジャポニズムを背景とした着物の欧米における影響についての研究

Research of the influence of kimono in Western fashion
in the background of Japonism

深井 晃子^{*1+}, 長崎 巖^{*2+}, 稲賀 繁美^{*3+}, 周防 珠実^{*1+}, 石関 亮^{*1+}

Akiko Fukai^{*1+}, Iwao Nagasaki^{*2+}, Shigemi Inaga^{*3+}, Tamami Suoh^{*1+}, and Makoto Ishizeki^{*1+}

*1 公益財団法人京都服飾文化研究財団 京都市下京区七条御所ノ内南町 103

The Kyoto Costume Institute,

103, Shichi-jo Goshonouchi Minamimachi, Shimogyo-ku, Kyoto, 600-8864, JAPAN

*2 共立女子大学 家政学部

Faculty of Home Economics, Kyoritsu Women's University

*3 国際日本文化研究センター 研究部

Faculty of Research Department, International Research Center for Japanese Studies

+ 服飾文化共同研究拠点、文化ファッション研究機構、文化学園大学

Joint Research Center for Fashion and Clothing Culture

Bunka Fashion Research Institute, Bunka Gakuen University

Abstract: The Japanese word "kimono" is well-known in the West. The most important vector for this knowledge of the kimono was the trend of Japonism that emerged in the second half of the 19th century after Japanese ports were opened to the world. In order to study the influence of the kimono on Western culture in the context of Japonism, we conducted field surveys to confirm that kimonos from Japan were present in Europe.

This was a period when Japanese goods were taken overseas in increasing numbers. International expositions in Europe and America introduced kimonos and other Japanese objects, interest in Japanese art and culture grew rapidly, and Western artists were inspired by Japanese art, in a movement that was called Japonism. Kimonos first won the admiration of artists, and before long, they attracted ordinary women too. Keen collectors emerged, and Western museums began to acquire kimonos and Japanese textiles. Our research shows that collectors were motivated by the objective of securing sources of design ideas as well as by the desire for works of art.

In addition to its influence on art, Japonism had a significant influence on Western fashion, particularly Paris fashion. This has been corroborated by research such as that published in Akiko Fukai's *Japonism in Fashion* (1994, Heibonsha) and demonstrated by the Kyoto Costume Institute's exhibition *Japonism et Mode* (1994 in Kyoto, 1996 in Tokyo). In order to verify how kimono and Japanese textiles influenced the West, we conducted field studies from 2009 to 2011 to survey kimono and Japanese textile collections in museums in France, the UK, and Italy. Researchers were able to examine the collections at the Victoria and

*1) fukai@kci.or.jp

Albert Museum in London and at Les Arts Décoratifs - Mode et Textile, and the Musée National des Arts Asiatiques Guimet in Paris in 2009, at the Museo d'Arte Orientale Ca' Pesaro in Venice and at the Museo Pier Alessandro Garda e del Canavese in Ivrea in 2010, and at the National Museum of Scotland in Edinburgh and the Kelvingrove Art Gallery and Museum in Glasgow in 2011.

Finally, a symposium, The Influence of Kimono: In the Background of Japonism, was held in Tokyo in November, 2011 to bring together the findings of the three years of surveys and provide an overall report on the research project. To complement our research, Dr. Ricard Bru, professor of the University of Barcelona, was invited to report on collections in Spain, which had not been covered by the research group.

要旨

「Kimono」という語は西欧においても広く認識されている。日本が鎖国を解き、世界に向けて開港した 19 世紀後半以来、着物(註 1)を西欧に広げた最も重要なベクトルはジャポニスムである。これを踏まえ、我々の研究は、ジャポニスムとの関係性の中で日本の着物が西欧文化に与えた影響を研究するため、この時期に海外へ渡った着物の存在を確認するための現地調査である。

19 世紀後半、様々な機会、様々な手段により、着物を含む多くの日本品が海外流出した。とりわけ欧米各地で開催された万国博覧会に日本の品が出展され、欧米で日本の芸術や文化への関心が急速に高まり、ジャポニスムと呼ばれる日本美術愛好熱の熱狂的な流行が興った。当初、当時の西欧の芸術家たちを魅了した着物は、やがて広く一般の女性の憧れとなる。熱心なコレクターも生まれ、欧米の美術館は着物及び日本染織品の収集を開始した。その主な目的は美術品として、また、デザイン源としてであったことも今回の調査で明らかになった。

ジャポニスムは芸術だけでなく、ファッション、とりわけパリ・ファッションにも影響を与えていたことは、既に深井晃子の『ジャポニスム イン ファッション』(平凡社 1994)や京都服飾文化研究財団による「モードのジャポニスム」展(京都:1994、東京:1996)などによって明らかにされている。

このように着物及び日本染織品は西欧に影響を与えたが、その影響への根拠を立証するため、我々研究グループは 2009 年から 2011 年にかけて、フランス、イギリス、及びイタリアの美術館における着物及び日本染織品の調査を実施した。現物調査を実施した館は、2009 年にロンドンのヴィクトリア・アンド・アルバート美術館、パリのフランス国立衣装テキスタイル美術館及びギメ美術館、2010 年にイタリアのヴェネツィア東洋美術館及びイブレア市立ガルダ美術館、2011 年に、イギリスのスコットランド国立博物館及びグラスゴー市立ケルヴィングローブ美術館である。

また、2011 年 11 月、3 年間の調査の統括として、シンポジウム「KIMONO の影響力:ジャポニスムを背景として」を開催し、研究の統括とした。なお、本共同研究において調査を実施できなかったスペインの状況については、バルセロナ大学教授のリカル・ブル氏を招聘し、本共同研究の補完を行った。

配当決定額

| | |
|----------|-------------|
| 平成 21 年度 | 1,600,000 円 |
| 平成 22 年度 | 1,300,000 円 |
| 平成 23 年度 | 1,440,000 円 |
| 合計 | 4,340,000 円 |

研究の目的

19 世紀後半、欧米におこったジャポニズムの熱狂的な流行は、西洋ファッションの発信地として機能していたパリを中心としたモードにも及んだ。それは日本の着物及び日本染織品からの多くの影響がみられたことは先行研究[1]によって明らかになっている。これらを踏まえ、本共同研究は、その影響への根拠となる流出した現物調査を行い、より高い精度に置いて表題の研究成果を上げることを最終的な目的としている。

研究の方法

19 世紀後半から 20 世紀初頭、すなわちジャポニズムの流行期に形成され、西欧に現存する日本染織コレクションについて来歴、収集品内容を調査することにより、研究の目的とする物的側面からの根拠を与える。

アメリカの美術館における調査[2]は既に行われているが、ジャポニズムの中心的な国であるフランス、イギリスにおける調査はされていない。そのため、本共同研究ではヨーロッパ主要国、フランスとイギリス、そしてイタリアを対象とし、着物及び日本染織品のコレクションについて明らかにする。

ジャポニズムの流行に伴って、着物や日本染織品は個人コレクターや美術館・博物館によって収集された。個人コレクターのコレクションは多くが死後の売立等で散逸しているため、現在ではまとまりのあるコレクションのほとんどが美術館等の専門施設で保管・研究されている。そのため、フランスとイギリス、そしてイタリアにおける美術館・博物館を調査の対象とし、19 世紀後半から 1920 年代までに、どのような着物や日本染織品が収集されたのか、に焦点をあて、現物調査を実施した。

調査結果

1. フランス

(1) フランス国立衣装テキスタイル美術館 Les Arts Décoratifs - Mode et Textile

107, rue de Rivoli, 75001, Paris, FRANCE

フランス国立衣装テキスタイル美術館の設立は 1997 年であるが、基礎となっているコレクションは、1882 年から存在する U.C.A.D. (装飾美術中央連合) が母体の装飾美術館が所蔵していた染織コレクションと、1948 年設立の U.F.A.C. (フランス衣装芸術協会) のコレクションである。U.C.A.D. はさらに工業応用美術中央協会と装飾美術館協会の統合から生まれたもの。2 つの協会はいずれも万博の展示品の収集を目的として設立された。

フランス国立衣装テキスタイル美術館における着物、袱紗、テキスタイル等の総収蔵品展数は 721 点あり、その中から平成 21 年度に深井晃子、周防珠実、石関亮が調査を実施したのは、収蔵されている全ての着物 22 点、抽出したテキスタイル 7 点である。その内、ジャポニズム流行時である 19 世紀から 1920 年代までに美術館が入手した作品は着物 10 点 (購入 4 点、寄贈 6 点)、テキスタイル 6 点 (購入) であった。

Table 1. The number of items, our research in Les Arts Décoratifs - Mode et Textile

フランス国立衣装テキスタイル美術館における調査点数

| | | 着物 | 帯 | テキスタイル |
|---|---|--------------------|----|--------|
| 1 | 1920年代までに収蔵 | 10点（購入4点、 寄贈6点） | 0点 | 6点（購入） |
| 2 | 1930年以降の収蔵だが、1920年代までにヨーロッパでの存在が確認されている作品 | 0点 | 0点 | 0点 |
| 3 | 1930年以降に収蔵 | 12点 | 0点 | 1点 |
| | 平成21年度調査点数合計 | 22点 | 0点 | 7点 |

(2) フランス国立ギメ東洋美術館 Musée national des Arts asiatiques Guimet

6, place d'Iéna, 75016, Paris, FRANCE

フランス国立ギメ美術館は、リオン出身の実業家エミール・ギメ(Emile Guimet, 1836-1918)が構想した宗教博物館が出発点であり、古代エジプト信仰、古代ギリシャ・ローマ、アジア諸国に関する宗教芸術を展示しようというもの。そのため、染織品は初期のコレクションにはほとんど含まれていない。体系的な染織品コレクションの形成には、クリシュナ・リブー(Krishna Riboud, 1926-2000)のコレクションの寄贈を待たなければならない。

平成21年度に深井晃子、周防珠実、石関亮が現地において確認したが、約600点の日本染織品の中に我々が調査目的の対象とする作品は収蔵されていなかったことが明らかになった。

Table 2. The number of items, our research in Musée national des Arts asiatiques Guimet

フランス国立ギメ東洋美術館における調査点数

| | | 着物 | 帯 | テキスタイル |
|---|---|-----|----|--------|
| 1 | 1920年代までに収蔵された作品 | 0点 | 0点 | 0点 |
| 2 | 1930年以降の収蔵だが、1920年代までにヨーロッパでの存在が確認されている作品 | 0点 | 0点 | 0点 |
| 3 | 1930年以降に収蔵された作品 | 13点 | 0点 | 0点 |
| | 平成21年度調査点数合計 | 13点 | 0点 | 0点 |

2. 英国

(1) ヴィクトリア・アンド・アルバート美術館 The Victoria and Albert Museum

Cromwell Road, London SW7 2RL, United Kingdom

ヴィクトリア・アンド・アルバート美術館は、1851年 ロンドン万国博覧会の収益と購入品をもとに、イギリスの産業発展のための産業博物館 The Museum として、1852年に開館した。1857年、現在の地に移転し、1899年、現在の名称に変更している。

ヴィクトリア・アンド・アルバート美術館のデータベースによると、日本染織品は総数403点が所蔵され、その中から我々の調査目的に合った作品、着物26点、帯3点、テキスタイル7点を抽出し、平成21年度に深井晃子、周防珠実、石関亮が調査を行った。なお、今回、袷裯や袱紗等は調査の対象外とした。そ

の内、我々の目的に応じた、ジャポニスム流行時の 19 世紀後半から 1920 年代までに美術館が入手した作品は、着物 5 点(購入 1 点、寄贈 4 点)、帯 1 点(寄贈)、テキスタイル 6 点(購入 3 点、寄贈 3 点)であった。さらに、1930 年代以降の収蔵ではあるが 1920 年代までに渡英したことが判明している着物 2 点(購入)、テキスタイル 1 点(寄贈)の存在が明らかになった。

Table 3. The number of items, our research in the Victoria and Albert Museum

ヴィクトリア・アンド・アルバート美術館における調査点数

| | | 着物 | 帯 | テキスタイル |
|---|--|--------------------|---------|--------------------|
| 1 | 1920 年代までに収蔵された作品 | 5 点(購入 1 点、寄贈 4 点) | 1 点(寄贈) | 6 点(購入 3 点、寄贈 3 点) |
| 2 | 1930 年以降の収蔵だが、1920 年代までに渡英したことが確認されている作品 | 2 点(購入) | 0 点 | 1 点(寄贈) |
| 3 | 1930 年以降に収蔵された作品 | 19 点 | 2 点 | 0 点 |
| | 平成 21 年度調査点数合計 | 26 点 | 3 点 | 7 点 |

(2) 国立スコットランド博物館 National Museum of Scotland

Chambers Street, Edinburgh EH1 1JF, United Kingdom

国立スコットランド博物館は、1854 年に産業博物館 Industrial Museum として開館した。1904 年 the Royal Scottish Museum に、1995 年 Royal Museum に、2006 年 現在の名称に変更されている。

国立スコットランド博物館が所蔵する着物及び日本染織品の総点数は 228 点で、その中から平成 23 年度に深井晃子、長崎巖、周防珠実、石関亮が現地調査を行ったのは、着物 19 点、帯 5 点、テキスタイル 200 点及び見本貼 2 冊である。その内、1920 年代までに収蔵されたものは、着物 4 点(購入 2 点、寄贈 2 点)、服紗等を含むテキスタイル 196 点(購入 52 点、寄贈 144 点)及び裂貼 1 冊(購入)である。

Table 4. The number of items, our research in National Museum of Scotland

国立スコットランド博物館における調査点数

| | | 着物 | 帯 | テキスタイル |
|---|-------------------------------------|--------------------|-----|------------------------------------|
| 1 | 1920 年代までに収蔵 | 4 点(購入 2 点、寄贈 2 点) | 0 点 | 196 点(購入 52 点、寄贈 144 点)+裂貼 1 冊(購入) |
| 2 | 1930 年以降の収蔵だが、1920 年代までに渡英が判明している作品 | 0 点 | 0 点 | 0 点 |
| 3 | 1930 年以降に収蔵 | 15 点 | 5 点 | 4 点+裂貼 1 冊 |
| | 平成 23 年度調査点数合計 | 19 点 | 5 点 | 200 点+裂貼 2 冊 |

(3) グラスゴー市立ケルヴィングローブ美術館 Kelvingrove Art Gallery and Museum, Glasgow Museums

Argyle St, Glasgow G3 8AG, United Kingdom

グラスゴー市立ケルヴィングローブ美術館の前身は、1870 年にグラスゴー産業発展のために設立され

たグラスゴー市立産業博物館 The City Industrial Museum である。この地の造船、化学薬品、テキスタイルなどの産業の発展のため、それらの作品の収集が開始された。1901 年に開催されたグラスゴー万博の際に産業博物館とマクレラン・ギャラリーが統合され、現在の名称となった。

ケルヴィングローブ美術館が所蔵しているコレクションは、着物 2 点、帯 1 点、テキスタイル 25 点であり、その中から平成 23 年度に深井晃子と周防珠実が調査した作品は、着物 2 点、テキスタイル 13 点 である。その内、1920 年までに収蔵されたのは、テキスタイル 13 点のみであった。

Table 5. The number of items, our research in Kelvingrove Art Gallery and Museum

グラスゴー市立ケルヴィングローブ美術館における調査点数

| | | 着物 | 帯 | テキスタイル |
|---|-------------------------------------|-----|-----|----------|
| 1 | 1920 年代までに収蔵 | 0 点 | 0 点 | 13 点(寄贈) |
| 2 | 1930 年以降の収蔵だが、1920 年代までに渡英が判明している作品 | 0 点 | 0 点 | 0 点 |
| 3 | 1930 年以降に収蔵 | 2 点 | 1 点 | 0 点 |
| | 平成 23 年度調査点数合計 | 2 点 | 1 点 | 13 点 |

3. イタリア

(1) ヴェネツィア東洋美術館 Museo d'Arte Orientale Ca' Pesaro, Venice, Italy

Sestriere Santa Croce n. 2076 - Venice

ヴェネツィア東洋美術館の日本美術コレクションは、ハプスブルグ家の血筋を引くエンリコ・ボルボン・バルディ伯爵(Principe Enrico II di Borbone, conte di Bardi, 1851-1906)が、1889 年 2 月から 7 カ月間の日本滞在の間、日本全国を回って収集したものである。彼の死後、コレクションの半数は国家に寄贈され、現在、ヴェネツィア東洋美術館に所蔵されている日本美術工芸品は漆器、陶器、刀、武具、楽器、版画、掛幅、染織品等、約 4,500 点である[3]。

長崎巖の先行調査を元に、平成 22 年度に深井晃子、長崎巖、周防珠実、石関亮が調査を行った作品は寄贈された着物 57 点である。

Table 6. The number of items, our research in Museo d'Arte Orientale Ca' Pesaro, Venice

ヴェネツィア東洋美術館における調査点数

| | | 着物 | 帯 | テキスタイル |
|---|---|----------|-----|--------|
| 1 | 1920 年代までに収蔵 | 57 点(寄贈) | 0 点 | 0 点 |
| 2 | 1930 年以降の収蔵だが、1920 年代までにヨーロッパでの存在が確認されている作品 | 0 点 | 0 点 | 0 点 |
| 3 | 1930 年以降に収蔵 | 0 点 | 0 点 | 0 点 |
| | 平成 22 年度調査点数合計 | 57 点 | 0 点 | 0 点 |

(2) イブレア市立ガルダ美術館 Museo Pier Alessandro Garda e del Canavese, Ivrea, Italy

Piazza Ottintti 18, Ivrea, Italy

イブリア市立ガルダ美術館のコレクションは、イブリア出身のピエール・アレッサンドロ・ガルダ中尉 (Pier Alessandro Garda, 1791-1880) が、政治的亡命によって居住地としたパリを中心としたヨーロッパにおいて明治 7 年(1874)年まで収集したものである。これらのコレクションである日本と中国の美術工芸品 736 点がイブリア市に寄贈されたことによって、1876 年に美術館が設立された。現在、美術館は長年にわたって修復中であり、イブリア市文化課の協力のもとにこの度の調査が可能となった。

平成 22 年度に、深井晃子、長崎巖、周防珠実、石関亮が、同館所蔵の日本染織品についての初めての現物調査を実施し、寄贈された着物 3 点、寄贈された袱紗を含むテキスタイル 5 点の所蔵が明らかになった。

Table 7. The number of items, our research in Museo Pier Alessandro Garda e del Canavese, Ivrea
イブリア市立ガルダ美術館における調査点数

| | | 着物 | 帯 | テキスタイル |
|---|---|----------|---|----------|
| 1 | 1920 年代までに収蔵 | 3 点 (寄贈) | 0 | 5 点 (寄贈) |
| 2 | 1930 年以降の収蔵だが、1920 年代までにヨーロッパでの存在が確認されている作品 | 0 | 0 | 0 |
| 3 | 1930 年以降に収蔵 | 0 | 0 | 0 |
| | 平成 22 年度調査点数合計 | 3 点 | 0 | 5 点 |

4. シンポジウムの開催

3 年間に渡る現地調査を統括するため、2011 年 11 月 26 日(土)、シンポジウム「KIMONO の影響力：ジャポニズムを背景として」を下記の要領で開催した。本シンポジウムでは、現地調査を果たせなかったスペインよりバルセロナ大学教授のリカル・ブル氏を招聘し、スペインのカタルーニャ地方におけるテキスタイルのジャポニズムの影響について考察し、本研究を補完した。

シンポジウム「KIMONO の影響力：ジャポニズムを背景として」

開催日時： 2011 年 11 月 26 日(土)13:30-17:00

開催場所： 学校法人 文化学園 B201 ホール

主催：公益財団法人京都服飾文化研究財団、文化学園大学文化ファッション研究機構

企画：服飾文化共同研究拠点「ジャポニズムを背景とした着物の欧米における影響についての研究」
[プログラム]

第 I 部

開催趣旨挨拶 深井晃子(京都服飾文化研究財団チーフ・キュレーター)

基調講演「布と織物の現代的可能性－世界を装飾することの意味」稲賀繁美(国際日本文化研究センター教授)

調査報告

「アメリカの美術館に所蔵されている日本染織品」長崎巖(共立女子大学教授)

「イギリスの美術館所蔵品の調査報告」周防珠実(京都服飾文化研究財団キュレーター)

「フランス、イタリアの美術館所蔵品の調査報告」石関亮(京都服飾文化研究財団キュレーター)

第Ⅱ部

特別講演「スペイン、カタルーニャのテキスタイルのジャポニスム」リカルド・ブル(バルセロナ大学教授) 使用言語:英語(日本語のレジュメ配布)

パネルディスカッション (共同研究メンバー及びリカル・ブル氏)

本シンポジウムにおいて、深井晃子が本プロジェクト及びシンポジウムの趣旨を説明。続いて稲賀繁美は着物を広く布として還元し、布の復権についての基調講演を行い、長崎巖はアメリカの美術館が所蔵する日本染織品について報告し、周防珠実及び石関亮はフランス、イギリス、イタリアにおける本調査報告を行った。さらにリカル・ブル氏を招聘し、本共同研究では実施できなかった、スペインとりわけカタルーニャにおけるジャポニスムについて特別講演を行った。本シンポジウムでは、ジャポニスム研究者や日本染織品研究者をはじめ、128名が参加した。

おわりに

平成21年度から3年間に渡る本共同研究の目的は、フランス、イギリス、イタリアの美術館・博物館における着物を中心とした日本染織品の保有状況と内容の調査であった。対象としたものは、ジャポニスムが欧米で起こった時期、19世紀後半から1920年代までに美術館に収蔵されたもの、もしくは1930年代以降の収蔵だがそれ以前にヨーロッパに渡っていたものである。調査の結果、フランス、イギリス、イタリアの各美術館・博物館の収蔵品の性格、収集時期、方法、目的などを明らかにした。これにより、この調査は、ヨーロッパにおいて流行したジャポニスム、とりわけファッションにおけるジャポニスムにおいて、どのような着物や日本染織品がヨーロッパに渡り、どのようなものをイメージ源としていたのかを探り、影響の根拠を示すという研究目的は達せられた。これにより、それらがジャポニスムにおいて果たした役割はより明確になり、今後の研究を広げるものと思う。しかし、今回実施できなかったオーストリアなどについても、今後のさらなる調査の必要性も感じた。

さらに、調査を実施した美術館・博物館の中には日本染織品の専門家によって着物や日本染織品の調査が進んでいるところもあったが、専門家が不在の美術館・博物館も多くあり、我々の現地調査によってそれら収蔵品の基本的な情報のフィードバックができたことは極めて有意義であった。

註

1. 本来、江戸時代のものは小袖や打掛等の用語を使用すべきだが、西欧で総称されて認識されている日本の衣服を便宜上、着物とする。

文献

1. 京都服飾文化研究財団編 : 『モードのジャポニスム キモノから生まれたゆとりの美』展(京都国立近代美術館)図録 (1994)
2. 長崎巖著 : 『在外日本染織集成』、小学館(1995)
3. I. Kumakura, J. Kreiner : *Notes on the Japanese Collection of Count Bourbon Bardi at the Museo d'Arte Orientale di Venezia*, 『国立民族学博物館研究報告』 Vol.25(4), pp.641-668 (2001)